

伊是名村 橋梁長寿命化修繕計画

令和 3 年 4 月

伊 是 名 村 役 場 建 設 環 境 課

1. 目的

本村が管理する橋梁は令和 3 年度現在で 19 橋あり、架設後 30 年以上経過した橋梁は全体の約 40%を占めている。今後、これらの橋梁が老朽化してくことで、近い将来、維持管理コストが増大することが予想される。そのため、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的かつ効果的に橋梁の維持管理を行い、道路交通の安全性の確保を図ることを目的に、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2. 対象橋梁

修繕計画の対象橋梁を表 2-1 に、位置図を図 2-1 に示す。

表 2-1 対象橋梁一覧表

番号	橋梁名	道路種別	路線名	橋長(m)	全幅員(m)	構造幅(m)	構造長(m)	架設年次	供用年数	橋種
1	内花橋	1村	ゴハ線	20.6	13.0	-	-	1997年 (平成9年)	24年	PC(ﾌﾟﾚﾂ)単純 中空床版橋
2	ゴハ1号	1村	ゴハ線	5.8	13.0	-	-	1982年 (昭和57年)	39年	函渠
3	クイジ1号	1村	クイジ線	4.5	8.9	-	-	1982年 (昭和57年)	39年	函渠
4	クイジ2号	1村	クイジ線	3.6	9.4	-	-	1982年 (昭和57年)	39年	函渠
5	上仲田1号	1村	上仲田	3.8	18.0	2.6	18.0	1982年 (昭和57年)	39年	函渠
6	南風原1号(新村橋)	1村	南風原線	2.9	13.3	-	-	1991年 (平成3年)	30年	函渠
7	南風原3号	1村	南風原線	10.8	18.4	4.4	18.4	1993年 (平成5年)	28年	函渠
8	チマイ1号(チマイ橋)	2村	チマイ線	10.1	8.0	-	-	1995年 (平成7年)	26年	RC単純床版橋
9	チマイ2号	2村	チマイ線	6.4	8.0	3.6	14.2	1993年 (平成5年)	28年	函渠
10	チマイ3号	2村	チマイ線	4.6	6.4	4.2	7.0	1978年 (昭和53年)	43年	函渠
11	サトモ1号	村	サトモ線	10.6	4.6	-	-	1982年 (昭和57年)	39年	RC単純T桁橋
12	サトモ2号	村	サトモ線	4.6	5.6	-	-	1982年 (昭和57年)	39年	函渠
13	勢理客線(1号)	村	勢理客線	7.1	6.1	-	-	1995年 (平成7年)	26年	RC単純床版橋
14	勢理客11号線(1号)	村	勢理客11号線	10.8	6.2	-	-	2001年 (平成13年)	20年	RC単純床版橋
15	勢理客12号線(1号)	村	勢理客12号線	14.1	12.8	9.1	27.1	1999年 (平成11年)	22年	函渠
16	勢理客14号線(1号)	村	勢理客14号線	2.5	5.4	-	-	1995年 (平成7年)	26年	函渠
17	勢理客15号線(1号)	村	勢理客15号線	8.0	6.0	-	-	1995年 (平成7年)	26年	RC単純床版橋
18	勢理客14号線(2号)	村	勢理客14号線	3.4	7.3	3.4	9.0	1995年 (平成7年)	26年	函渠
19	勢理客14号線(3号)	村	勢理客14号線	3.4	7.3	3.4	9.0	1995年 (平成7年)	26年	函渠

※道路種別は、一級(二級)村道：「1(2)村」、一般村道：「村」とする。
※構造幅及び構造長は、斜角を有するボックスカルバートのみ記載する。
※ボックスカルバートの橋長及び構造幅は、側壁厚が確認できない場合は推定値を記載する。

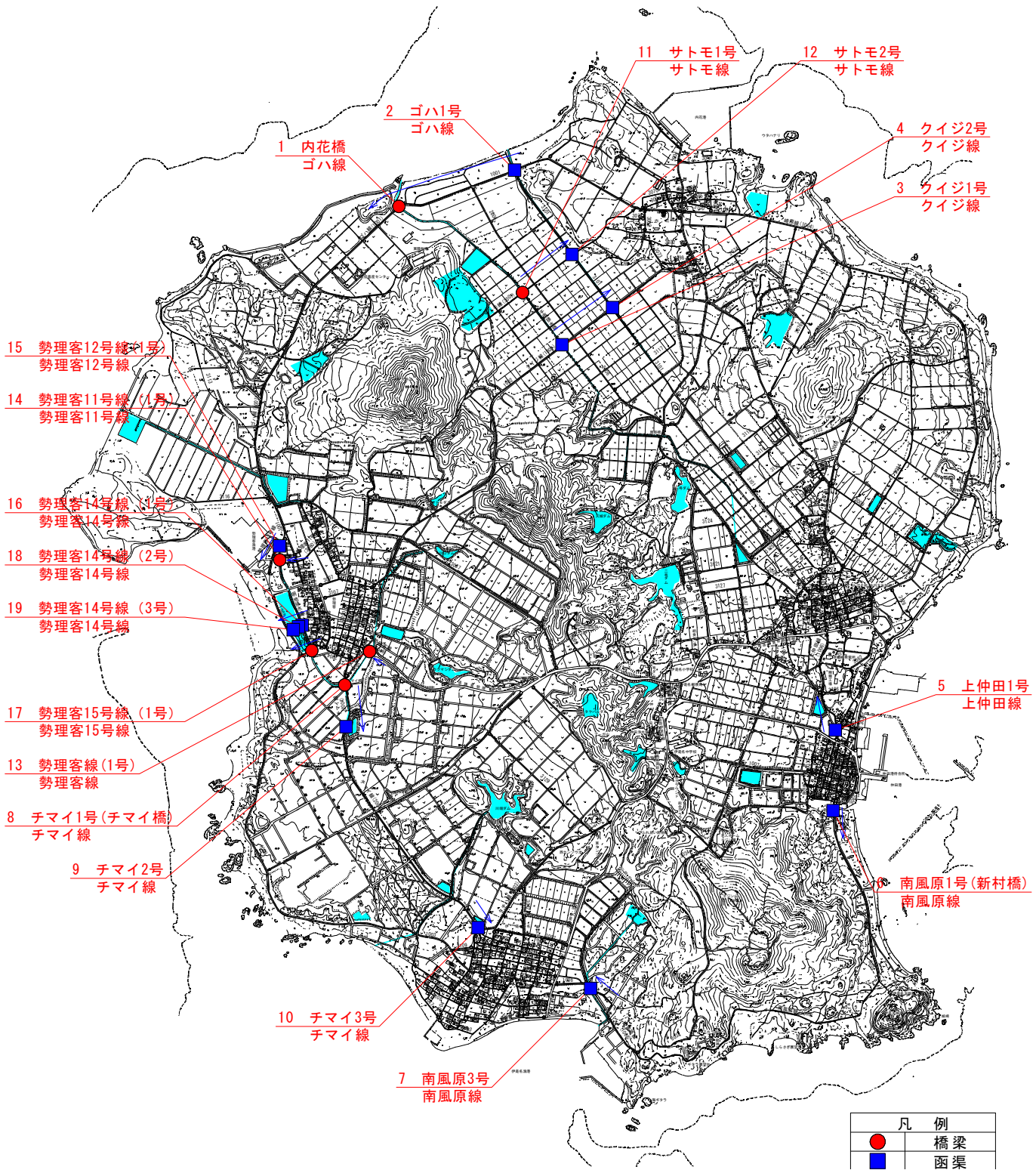


図 2-1 橋梁位置図

3. 定期点検結果（平成 29 年度）

直近の平成 29 年度の定期点検結果を以下に示す。

表 3-1 点検結果一覧表（1）

番号	橋梁名 (構造形式)	路線名	供用開始年 (経過年数)	主な損傷		対策区分	部材の 健全性	橋の 健全性	総 合 評 価
				部材名	損傷の種類				
1	内花橋 (PC単純プレテン 中空床版橋)	ゴハ線	1997年 (21年)	主桁 01	その他(残鉄)	B	I	Ⅰ	床版(間詰めコンクリート部)で局所的な遊離石灰が確認された。 両翼壁では、局所的なひびわれが見られ、ひびわれ幅は最大で0.9mmである。 主要部材の損傷は局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。 ただし、 防護柵の支柱基礎及び親柱が伸縮装置を跨いで設置されている ため、道路橋の機能に支障が生じる可能性がある。 特にA1橋台側は可動支承となっており、橋の挙動を拘束する親柱は道路橋の機能に支障が生じる可能性が高いため、今後 必要に応じて対策を検討 する。
				床版 17	漏水・遊離石灰	B	I		
				縦壁 01	漏水・遊離石灰	B	I		
				翼壁 01	ひびわれ	B	I		
				防護柵 01	腐食,防食機能の劣化	C1	Ⅱ		
2	ゴハ1号 (RC1連ボックスカルバート)	ゴハ線	1982年 (36年)	頂版(主桁) 01	その他(残鉄)	B	I	Ⅱ	両側壁(縦壁)で広範囲のうきが確認された。 平成24年度点検時ですでにうきは確認されているが、うきの範囲は左右側壁ともに拡大している。 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から補修等の対策を検討することが望ましい状態と判断される。 うきの発生原因が不明であることから、損傷原因を推定するため、 詳細調査の実施 が必要である。
				側壁(縦壁) 01	うき	C1(S1)	Ⅱ		
				側壁(縦壁) 02	うき	C1(S1)	Ⅱ		
				側壁(縦壁) 02	剥離・鉄筋露出	B	I		
				地覆 01	うき	B	I		
3	クイジ1号 (RC1連ボックスカルバート)	クイジ線	1982年 (36年)	頂版(主桁) 01	ひびわれ	B	I	Ⅰ	呑口側の頂版(主桁)側面で局所的なひびわれが確認された。 吐口側の防護柵の腐食がやや顕著に見られ、全体的に錆が発生している。 主要部材の損傷は局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。
				側壁(縦壁) 01	ひびわれ	B	I		
				地覆 01	漏水・遊離石灰	B	I		
				防護柵 01	腐食,防食機能の劣化	C1	Ⅱ		
				舗装 01	路面の凹凸	B	I		
4	クイジ2号 (RC1連ボックスカルバート)	クイジ線	1982年 (36年)	頂版(主桁) 01	その他(残鉄)	B	I	Ⅰ	頂版(主桁)下面で局所的な剥離が確認された。 防護柵ではビーム部が部分的に腐食しており、反射鏡部の破断が確認された。 主要部材の損傷は局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。
				頂版(主桁) 01	剥離・鉄筋露出	B	I		
				地覆 01	変形・欠損	B	I		
				防護柵 01	腐食	B	I		
				舗装 01	路面の凹凸	M	Ⅱ		
5	上仲田1号 (RC1連ボックスカルバート)	上仲田線	1982年 (36年)	頂版(主桁) 01	漏水・遊離石灰	B	I	Ⅰ	頂版(主桁)、側壁(縦壁)で局所的なうきや欠損、豆板が確認された。 ボックスカルバート内には、2箇所の目地部があり、呑口側の目地部に漏水が確認された。 主要部材の損傷は局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。
				頂版(主桁) 01	剥離・鉄筋露出	C1	Ⅱ		
				側壁(縦壁) 01	うき	B	I		
				側壁(縦壁) 02	変形・欠損	B	I		
				側壁(縦壁) 02	その他(豆板)	B	I		
6	南風原1号(新村橋) (RC1連ボックスカルバート) (プレキャスト)	南風原線	1991年 (27年)	頂版(主桁) 01	ひびわれ	B	I	Ⅱ	プレキャストボックスカルバート連結部でモルタルの剥離やうきが確認された。 頂版や側壁では、局所的なひびわれが見られ、部分的に遊離石灰が発生している。 左右側壁に設けられた排水口は、施工時に鉄筋が切断されたものと推定され、露出した鉄筋に断面減少が確認された。 道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から補修等の対策を検討することが望ましい状態と判断される。 吐口側(橋梁範囲外)の 防護柵で部分的な破断 が確認されたため、 別途対策を検討 する必要がある。
				頂版(主桁) 01	剥離・鉄筋露出	C1	Ⅱ		
				側壁(縦壁) 01	うき	B	I		
				側壁(縦壁) 01	漏水・遊離石灰	B	I		
				側壁(縦壁) 02	その他(鉄筋切断)	C1	Ⅱ		
7	南風原3号 (RC2連ボックスカルバート)	南風原線	1993年 (25年)	頂版(主桁) 01	ひびわれ	B	I	Ⅱ	第1径間では、すべての部材でひびわれが確認され、隔壁(柱部・壁部)が特に顕著である。頂版(主桁)のひびわれには局所的な遊離石灰が発生している。 第2径間も同様に、隔壁(柱部・壁部)を中心にひびわれが確認された。 道路橋の機能には支障が生じていないが、ひびわれが多数見られるため、予防保全の観点から補修等の対策を検討することが望ましい状態と判断される。 また、ひびわれの発生原因が不明であることから、 詳細調査の実施 が必要である。吐口側の 防護柵取付金物で部分的な破断 が確認されたため、 別途対策を検討 する必要がある。
				側壁(縦壁) 01	ひびわれ	B	I		
				側壁(縦壁) 02	剥離・鉄筋露出	C1	Ⅱ		
				隔壁(柱部・壁部) 01	ひびわれ	C1(S1)	Ⅱ		
				隔壁(柱部・壁部) 02	ひびわれ	C1(S1)	Ⅱ		
8	タチハ1号 (RC1連ボックスカルバート)	タチハ線	1978年 (40年)	頂版(主桁) 01	剥離・鉄筋露出	B	I	Ⅱ	頂版(主桁)で局所的な剥離や残鉄が確認された。 側壁(縦壁)では、型枠止め金具部のモルタルが全体的にはく落し、金具が腐食している。 底版(フーチング)全体に土砂が堆積しているため、予防保全の観点から維持工事による対策を検討することが望ましい状態と判断される。また、 吐口側の防護柵支柱基部の腐食が著しく、基部周辺のコンクリートも欠損 しているため、 別途対策を検討 する必要がある。
				側壁(縦壁) 01	その他(残鉄)	B	I		
				底版(フーチング) 01	その他(土砂堆積)	M	Ⅱ		
				地覆 01	変形・欠損	C2	Ⅲ		
				防護柵 01	腐食,防食機能の劣化	C2	Ⅲ		

※対策区分の黄色着色は、C2、S1、S2、E1、E2を示す。

表 3-2 点検結果一覧表 (2)

番号	橋梁名	路線名	供用開始年 (経過年数)	主な損傷		対策区分	部材の 健全性	橋の 健全性	総合評価
				部材名	損傷の種類				
9	チマイ1号(チマイ橋) (RC床版橋)	チマイ線	1995年 (23年)	縦壁 01	漏水・遊離石灰	B	I	Ⅰ	主桁下面は損傷が見られず、健全な状態である。 A1橋台、A2橋台ともに縦壁に上部工からの漏水による遊離石灰が発生しているが、現時点で漏水等は認められない。 主要部材の損傷は局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていないと判断される。 ただし、施工当初から防護柵が設置されていないため、 道路利用者の安全性の確保及び第三者被害防止の観点から防護柵の設置を検討 する必要がある。
				胸壁 02	ひびわれ	B	I		
				縦壁 02	漏水・遊離石灰	B	I		
				地覆 01	変形・欠損	B	I		
				地覆 02	ひびわれ	C1	Ⅱ		
10	チマイ2号 (RC1連ボックスカルバート)	チマイ線	1993年 (25年)	頂版(主桁) 01	その他(豆板)	B	I	Ⅰ	頂版(主桁)で局所的な剥離や欠損、豆板が確認された。 側壁(縦壁)では、局所的なうき、遊離石灰が確認された。 いずれの損傷も局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。
				側壁(縦壁) 01	漏水・遊離石灰	B	I		
				側壁(縦壁) 02	うき	B	I		
				翼壁 02	剥離・鉄筋露出	B	I		
				防護柵 02	変形・欠損	C1	Ⅱ		
11	サトモ1号 (RC単純T桁橋)	サトモ線	1982年 (36年)	主桁 01	ひびわれ	C2(S1)	Ⅲ	Ⅲ	主桁側面から下面にかけて多数のひびわれが確認された。ひびわれ幅は最大で0.4mmであり、部分的にはく離している箇所も確認された。 平成24年度点検時と比較すると、ひびわれ箇所が増え、剥離へと進展している箇所があることから、劣化の進行は比較的早いと考えられる。劣化原因は塩害と推定され、道路橋の機能に支障が生じる可能性があることから、 早期に措置を講ずべき状態 と判断される。 また、損傷程度の把握と劣化原因確定のため、 詳細調査の実施 が必要である。 下流側の 防護柵支柱の破断 が確認されたため、 別途対策を検討 する必要がある。
				主桁 01	剥離・鉄筋露出	C2(S1)	Ⅲ		
				主桁 02	ひびわれ	C2(S1)	Ⅲ		
				床版 01	うき	C1	Ⅱ		
				防護柵 01	破断	E2	Ⅳ		
12	サトモ2号 (RC1連ボックスカルバート)	サトモ線	1982年 (36年)	頂版(主桁) 01	剥離・鉄筋露出	B	I	Ⅰ	頂版(主桁)で局所的な剥離や欠損、残鉄が確認された。 底版(フーチング)のハンチ部で衝突によると推定される欠損が確認された。 いずれの損傷も局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。 ただし、施工当初から防護柵が設置されていないため、 道路利用者の安全性の確保及び第三者被害防止の観点から防護柵の設置を検討 する必要がある。
				頂版(主桁) 01	変形・欠損	B	I		
				頂版(主桁) 01	その他(残鉄)	B	I		
				底版(フーチング) 01	変形・欠損	B	I		
				翼壁 02	変形・欠損	B	I		
13	勢理客線(1号) (RC床版橋)	勢理客線	1995年 (23年)	主桁 01	その他(残鉄)	B	I	Ⅰ	主桁下面は局所的な残鉄が1箇所あるのみで、健全な状態である。 A1橋台の縦壁に上部工からの漏水による遊離石灰が発生している。 いずれの損傷も局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていないと判断される。 ただし、施工当初から防護柵が設置されていないため、 道路利用者の安全性の確保及び第三者被害防止の観点から防護柵の設置を検討 する必要がある。
				縦壁 01	漏水・遊離石灰	B	I		
				縦壁 01	変形・欠損	B	I		
14	勢理客11号線(1号) (RC床版橋)	勢理客11号線	2001年 (17年)	主桁 01	その他(残鉄)	B	I	Ⅰ	主桁下面では局所的な残鉄や豆板が確認された。 両橋台ともに損傷はなく、健全な状態である。 防護柵の支柱取付部のナットが全体的に腐食している。 主要部材の損傷は局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていないと判断される。
				主桁 01	その他(豆板)	B	I		
				地覆 01	ひびわれ	B	I		
				防護柵 01	腐食,防食機能の劣化	B	I		
				伸縮装置 01	腐食,防食機能の劣化	B	I		
15	勢理客12号線(1号) (RC2連ボックスカルバート)	勢理客12号線	1999年 (19年)	頂版(主桁) 02	ひびわれ	C1(S1)	Ⅱ	Ⅱ	第1、2径間ともに、隔壁(柱部・壁部)、側壁(縦壁)で局所的なうきやひびわれが確認された。ひび割れ幅は最大で0.5mmと大きい。縦壁には局所的なうきも点在している。 道路橋の機能には支障が生じていないが、ひびわれの幅が大きいことから、予防保全の観点から補修等の対策を検討することが望ましい状態と判断される。また、うきやひびわれの発生原因が不明であることから、 詳細調査の実施 が必要である。
				隔壁(柱部・壁部) 01	ひびわれ	C1(S1)	Ⅱ		
				隔壁(柱部・壁部) 02	ひびわれ	C1(S1)	Ⅱ		
				側壁(縦壁) 02	うき	C1(S1)	Ⅱ		
				側壁(縦壁) 02	剥離・鉄筋露出	C1	Ⅱ		
16	勢理客14号線(1号) (RC1連ボックスカルバート)	勢理客14号線	1995年 (23年)	頂版(主桁) 01	剥離・鉄筋露出	B	I	Ⅰ	頂版(主桁)で局所的な剥離やうき、残鉄が確認された。 底版(フーチング)のハンチ部では、局所的な欠損が確認された。 いずれの損傷も局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていない状態と判断される。 ただし、施工当初から防護柵が設置されていないため、 道路利用者の安全性の確保及び第三者被害防止の観点から防護柵の設置を検討 する必要がある。
				頂版(主桁) 01	うき	B	I		
				頂版(主桁) 01	その他(残鉄)	B	I		
				底版(フーチング) 01	変形・欠損	B	I		
				翼壁 02	ひびわれ	B	I		

※対策区分の黄色着色は、C2、S1、S2、E1、E2を示す。

表 3-3 点検結果一覧表 (3)

番号	橋梁名	路線名	供用開始年 (経過年数)	主な損傷		対策区分	部材の 健全性	橋の 健全性	総合評価
				部材名	損傷の種類				
17	勢理客15号線(1号) (RC床版橋)	勢理客15号線	1995年 (23年)	主桁 01	その他(残鉄)	B	I	Ⅰ	主桁下面では型枠止め金具部のモルタルが部分的にはく離し、露出した金具が腐食している。 A1橋台の堅壁で局所的な欠損が確認された。 いずれの損傷も局所的かつ軽微であり、道路橋の機能に支障が生じていないと判断される。 ただし、施工当初から防護柵が設置されていないため、 道路利用者の安全性の確保及び第三者被害防止の観点から防護柵の設置を検討 する必要がある。
				堅壁 01	変形・欠損	B	I		
				地覆 01	変形・欠損	B	I		
				地覆 02	変形・欠損	B	I		
18	勢理客14号線(2号) (RC1連ボックスカルバート) (プレキャスト)	勢理客14号線	1995年 (23年)	頂版(主桁) 01	ひびわれ	C1(S2)	Ⅱ	Ⅱ	頂版(主桁)から側壁(堅壁)にかけて、全体的に亀甲状や断面方向のひびわれが多数確認された。 ひびわれ幅は最大で0.4mmとやや大きく、ひび割れ部から部分的に遊離石灰が発生している。 ひびわれの発生状況から、セメント水和熱・乾燥収縮等の初期不良及びアルカリ骨材反応によるひびわれの可能性が推定され、予防保全の観点から補修等の対策を検討することが望ましい状態と判断される。 今回が初回の点検であり、 ひびわれの進展を見極めるため、今後追跡調査の実施 が必要である。
				頂版(主桁) 01	漏水・遊離石灰	C1	Ⅱ		
				側壁(堅壁) 01	ひびわれ	C1(S2)	Ⅱ		
				側壁(堅壁) 02	ひびわれ	C1(S2)	Ⅱ		
				舗装 01	路面の凹凸	M	Ⅱ		
19	勢理客14号線(3号) (RC1連ボックスカルバート) (プレキャスト)	勢理客14号線	1995年 (23年)	頂版(主桁) 01	ひびわれ	C1(S2)	Ⅱ	Ⅱ	頂版(主桁)から側壁(堅壁)にかけて、全体的に亀甲状や断面方向のひびわれが多数確認された。 ひびわれ幅は最大で0.5mmとやや大きく、ひび割れ部から部分的に遊離石灰が発生している。 ひびわれの発生状況から、セメント水和熱・乾燥収縮等の初期不良及びアルカリ骨材反応によるひびわれの可能性が推定され、予防保全の観点から補修等の対策を検討することが望ましい状態と判断される。 今回が初回の点検であり、 ひびわれの進展を見極めるため、今後追跡調査の実施 が必要である。
				頂版(主桁) 01	漏水・遊離石灰	C1	Ⅱ		
				頂版(主桁) 01	変形・欠損	B	I		
				側壁(堅壁) 01	ひびわれ	C1(S2)	Ⅱ		
				側壁(堅壁) 02	ひびわれ	C1(S2)	Ⅱ		

※対策区分の黄色着色は、C2、S1、S2、E1、E2を示す。

対策区分の判定区分及び部材と橋の健全性の診断の区分を表 3-5 及び表 4-1 に示す。

表 3-5 対策区分の判定区分

判定区分	判定の内容
A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
B	状況に応じて補修を行う必要がある。
C1	予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
C2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
E1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
E2	その他、緊急対応の必要がある。
M	維持工事等で対応する必要がある。
S1	詳細調査の必要がある。
S2	追跡調査の必要がある。

表 3-4 健全性の診断の区分

区分		定義
Ⅰ	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないか、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
Ⅲ	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
Ⅳ	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

4. 対策の内容と時期

表 4-1 に、各橋梁の次回点検時期及び概ねの対策内容と時期を示す。

なお、本計画は、平成 29 年度の定期点検結果を基に想定したものであり、新たな点検結果を得た場合は、計画の見直しと更新を行うものである。

表 4-1 対策の内容と時期

番号	橋 梁 名	道 路 種 別	路 線 名	構 造 形 式	橋 長 (m)	架 設 年 度	供 用 年 数	最 新 点 検 年 次	対 策 の 内 容 ・ 時 期				
									R3	R4	R5	R6	R7
1	内花橋	1村	ゴハ線	PC(プレテン)単純中空床版橋	20.6	1997	24	H29		点検			
2	ゴハ1号	1村	ゴハ線	函渠	5.8	1982	39	H29		点検			
3	クイジ1号	1村	クイジ線	函渠	4.5	1982	39	H29		点検			
4	クイジ2号	1村	クイジ線	函渠	3.6	1982	39	H29		点検			
5	上仲田1号	1村	上仲田線	函渠	3.8	1982	39	H29		点検			
6	南風原1号（新村橋）	1村	南風原線	函渠	2.9	1991	30	H29		点検			
7	南風原3号	1村	南風原線	函渠	10.8	1993	28	H29		点検			
8	チマイ1号（チマイ橋）	2村	チマイ線	RC単純床版橋	10.1	1995	26	H29		点検			
9	チマイ2号	2村	チマイ線	函渠	6.4	1993	28	H29		点検			
10	チマイ3号	2村	チマイ線	函渠	4.6	1978	43	H29		点検			
11	サトモ1号	村	サトモ線	RC単純T桁橋	10.6	1982	39	H29	補修設計	上部工：断面修復等			
12	サトモ2号	村	サトモ線	函渠	4.6	1982	39	H29		点検			
13	勢理客線（1号）	村	勢理客線	RC単純床版橋	7.1	1995	26	H29		点検			
14	勢理客11号線（1号）	村	勢理客11号線	RC単純床版橋	10.8	2001	20	H29		点検			
15	勢理客12号線（1号）	村	勢理客12号線	函渠	14.1	1999	22	H29		点検	補修設計	頂板・側壁：断面修復等	
16	勢理客14号線（1号）	村	勢理客14号線	函渠	2.5	1995	26	H29		点検			
17	勢理客15号線（1号）	村	勢理客15号線	RC単純床版橋	8.0	1995	26	H29		点検			
18	勢理客14号線（2号）	村	勢理客14号線	函渠	3.4	1995	26	H29		点検			
19	勢理客14号線（3号）	村	勢理客14号線	函渠	3.4	1995	26	H29		点検			
対 策 費 用 （千円）										15,271		29,856	6,225
設計委託費用 （千円）									7,000		7,000		
合 計 （千円）									7,000	15,271	7,000	29,856	6,225